



# 図書館員が選ぶ この一冊

7

『<sup>ルウ</sup>路』

吉田 修一著

文藝春秋



商社社員の多田春香は、台湾に赴任し、新幹線開通を目指す中、ある人を捜していた。大学時代の出会いからずっと春香の心のよりどころであるその人もまた、春香を捜して生きていた。この物語は日本企業の新幹線受注から開通までの約8年間を日本と台湾を舞台に描かれる。

2007年、台湾の台北から高雄が高速鉄道で結ばれた。日本の新幹線技術が台湾を走るといって一大プロジェクトを軸に、異なる場所で過ごしてきた人々の過去と現在の思いが交差し、やがてつながっていく。

熱帯の風景とさまざまな料理の描写は、読者を台湾の旅へといざなう。